

活動テーマ

横瀬町の魅力情報発信及び教育的手法を生かした地域活性化の取組

横瀬町全域地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

令和7年度は、過去3年間で築き上げた関係性を活かして地域理解を深めた支援に注力した。地域住民との交流及び横瀬小学校における授業支援を主要な柱とし、学生の専門である教育分野を軸にしながら、地域の活性化活動に取り組んだ。

この方針と、前年度までの課題を踏まえ、本年度の活動の目標を次の4つに設定した。

- ①夏休み中の小学生等の「居場所づくり」を3日間設け、他大学等と連携し、高齢者の方等との交流体験活動、大学生による学習支援や子ども食堂を開催する。
- ②JICAの協力を仰ぎながら横瀬小学校の授業支援を3回実施する。
- ③前年度までの農業支援であるぶどう畑の手入れを中心に3回以上実施する。
- ④横瀬町の季節の果物を使ったオリジナル食品を新たに1品以上考案し ENgaWA で販売する。

2 活動地域の現状

横瀬町は埼玉県秩父盆地の南東端に位置し、総面積 49.49 平方キロメートル、人口約 7,600 人の町である。東は飯能市、西北部は秩父市に接し、都心から約 70km 圏内。西武鉄道で池袋から最短 72 分と都市近接性と自然環境を併せ持つ。主要産業は農林業で、観光農園などの観光・サービスが強みである。さらに町は、多様な人々が多様な幸せを実現できる「カラフルタウン」の将来像を掲げ、官民連携プラットフォーム「よこらぼ」等を活用し、企業や個人との協働による地域活性化に積極的に取り組んでいる。これらの取組を広く共有し、町外人材との協働を促進する場として開催される「よこらぼ大会議 2026」は、本年度で第3回開催となる。

3 活動内容

上記の活動目標に基づき、①～③の活動を実施した。

- ①小学生や地域住民等との交流活動
活動対象を小学生や来訪者を含む地域の方々とし、夏休みでの屋外の水遊びを通して、子どもの居場所づくりを支える地域環境の形成に貢献した。
- ②横瀬小学校の授業支援
第4学年の「総合的な学習の時間」の授業において10月と11月に計3回の国際理解に関する授業を実施した。
- ③農業支援活動
横瀬町芦ヶ久保地区の「琴平農園」において、地域おこし協力隊とともにぶどうの収穫・販売を手伝った。



小学生との水遊びの様子



横瀬小学校での授業の様子



スタッフの方から収穫の指導を受ける

4 成果

令和7年度の活動成果については、各取組後の振り返りおよび学生間の協議を通して抽出された意見を整理し、主として4点にまとめた。

- ①町内の農業支援活動（農作業手伝い・収穫作業など）、地域行事への参加、小学生との交流活動に継続して関わり、イベント等の円滑運営や地域コミュニティの維持に貢献した。
- ②横瀬小学校において、外部講師を招き、国際理解教育の授業を企画・運営し、児童の地域観・世界観の形成に寄与した。
- ③ゼミ外の学生にも活動内容を伝えた結果、地域連携に関心を持ち参加する学生が新たに現れ、裾野が広がり始めた。
- ④大学公式インスタグラムを活用し、町の魅力スポットを発信することで、地域の認知度向上とイメージ発信に貢献した。



ぶどう販売の様子



ゲストティーチャー寺田さんの説明
(横瀬小学校)



食の魅力を紹介
Instagramで紹介

5 課題

本年度の取組から、来年度以降に向けて解決すべき課題を①仕組みの強化 ②発信力の向上 ③拡がりのある計画づくりの3点に整理した。とりわけ①では、地域団体や他大学との横連携を早期に構築し、役割分担・安全管理・記録と振り返りを標準化する「共に活動できる仕組み」の構築が最重要である。②では、大学公式インスタグラム等のデータ分析を踏まえ、フォロワー外への到達を高める発信設計が課題である。③では、試験期・実習期を考慮した前倒しの年間計画と代替要員確保など、学業と継続活動を両立させる体制づくりが求められる。

6 次年度以降の計画

本年度で4年間の一区切りを迎えたが、同一地区への継続的な参画を通じて培われた学びと信頼関係は、中山間地域の活性化に資する実践として大きな意義を持つことを再確認した。学生にとっても、地域の多様な主体との関わりは将来の進路形成に資する貴重な経験機会となった。今後は、こうした蓄積を基盤として、若い世代が地域とともに成長し続ける循環をさらに強化したい。次年度は、本年度に整理した3つの課題を柱に、持続可能で実効性の高い活動運営へと発展させていく取組を検討していきたい。